

弘前大学
広報誌

ひろだい

vol.
13
2009.9



特集 学長インタビュー
創立60周年記念事業報告
創立60周年を起点とし、
日本一の地方大学を目指す。

[シリーズ]花開く研究
アースビジョンで体感する
生きている地球。

小菅正裕 理工学研究科附属地震火山観測所准教授

**被ばく医療に特化した
医療体制の整備を目指す**

對馬 均 保健学研究科長
柏倉幾郎 保健学研究科教授

**若き日の太宰治、津島修治が
はぐくんだ本学との縁。**

長谷川成一 附属図書館長・人文学部教授

**[学内トピックス]話題の広場から
創立60周年記念式典・学術講演会・
祝賀会を挙行 他**

特集

創立 60 周年記念事業報告

学長インタビュー

創立60周年を起点として、 日本一の地方大学を目指す。

去る6月6日(土)、創立60周年記念式典が挙行されました。式典では記念歌「新たな明日へ」が演奏され、同日には「コラボ弘大」の施設披露や記念モニュメントの除幕式なども行われました。多彩に展開してきた60周年記念事業の多くがこの日までに実施され、新たな一歩を踏み出した弘前大学。現時点での事業報告と今後の予定、その先にある弘前大学の目指すべき将来像について、学長にインタビューしました。



遠藤正彦 学長

1963年弘前大学医学部卒業、1968年東北大学大学院医学研究科修了。医学博士(医化学一般・病態医化学・構造生物化学・糖鎖工学)。東北大学医学部助手、講師を経て、1975年弘前大学医学部助教授、1981年教授、1996年医学部長、2002年2月学長に就任。2006年2月から学長2期目。柔軟な発想で大学改革の先頭に立ち、活力と創造性に満ちた人材育成に取り組む。



「コラボ弘大」施設披露式で挨拶する遠藤学長



太宰治氏の長女・津島園子氏も出席して行われた文学碑の除幕式



地域連携・産学官連携の拠点として注目される創立60周年記念会館「コラボ弘大」

創立60周年を飾る数々の記念イベント

——弘前大学創立60周年記念式典が、6月6日に行われました。

弘前大学は昭和24年5月31日に新制大学として創立されてから、平成21年5月で創立60周年を迎えました。私たちはこれまで、60周年記念としてさまざまなプロジェクトを展開してきましたが、6月6日に開催された記念式典は60周年記念事業のクライマックスであり、ここからまた新たなスタートを切ったといえるでしょう。今回の記念事業は盛大で多彩な内容で、周囲からは100周年並みではないかという声も聞こえてくるほどですが、これによって、特徴的で魅力ある大学をつくりたいと考えています。

——記念式典での模様についてお聞かせください。

弘前文化センターで開催された式典には、銭谷眞美文部科学事務次官(当時)、三村申吾青森県知事をはじめとする来賓のみならず、大学関係者、学生など約400人が出席しました。公募により制作した60周年記念歌「新たな明日へ」も、弘前大学フィルハーモニー管弦楽団と弘前大学混声合唱団の演奏で、感動的に披露されました。

また、記念式典に先立ちまして、本学構内の旧制弘前高等学校外国人教師館南側敷地の一角で、「太宰治」文学碑の

除幕式も行われました。太宰氏は本学の前身校の一つ、旧制弘前高等学校の卒業生であり、今年は氏の生誕100年であることから、創立60周年記念事業に合わせて文学碑を建立しました。長女・津島園子氏も出席した除幕式の後、文学碑の周りには、弘前大学の徽章にも使用されている牡丹が記念植樹として植栽されました。さらに、キャンパス内に建設された創立60周年記念会館「コラボ弘大」の施設披露式と、コラボ弘大1階エントランスロビーに設置された記念モニュメント「幸せのリング」の除幕式も執り行われました。

——「コラボ弘大」はどのような役割を担う施設ですか。

地域連携・産学官連携の拠点施設となります。ここに本学の対社会関係施設を集中させ、地域住民が訪れやすく利用しやすい環境を整えました。8階建てのビルの中に、大学院地域社会研究科、機器分析センター、青森市に開設した北日本新エネルギー研究センターの分室、白神自然観察園の分室、共同研究を行なうスペースを貸し出す「レンタルラボ」や放送大学、事務方として社会連携課、研究推進課などが入っています。

——「コラボ弘大」の1階エントランスロビーに設置された「幸せのリング」も話題になっていますね。

作者の宮田亮平先生は東京藝術大学の学長であり、世界的に活躍されている工芸作家です。東京駅の地下にある「銀の鈴」を手がけたり、新首相官邸に作品が設置されたりしてしまっていて、とても著名な方なんです。昨年始めに開催された国立大学協会の総会で、私はたまたま宮田先生の隣に並んだので、その時に「先生、なにか作ってくれませんか」とお願いしてみました。「ああ、いいですよ」と気軽に引き受けてくださったんです。それを聞いた周りの人たちは最初は「まさか」と言って信じてくれませんでした。昨年11月に弘前市で開催された国立大学協会総会の翌日の白神山地見学会にも宮田先生は参加され、歩きながら「イメージが湧いてきた」とおっしゃるんです。これは本当に作ってくださるんだと思いましたね。除幕式の1週間前、宮田先生がいらして自ら作品を設置してくださったのですが、それまでの間、どんな作品ができあがるのか楽



金工作品「幸せのリング」

60頭のイルカに繁栄の願いを託して

日展審査員であり、我が国の金工の第一人者である東京藝術大学長・宮田亮平先生が制作した弘前大学創立60周年記念モニュメント。「コラボ弘大」の1階エントランスロビーに設置され、文京町キャンパスの新たなシンボルとして注目されています。宮田先生は「弘前大学創立60周年を記念し、弘前大学と地域の皆様の絆が大きな一つの幸せの輪となって、益々繁栄する事を願って、私のモチーフとしているイルカ60頭に思いを託し制作いたしました」と作品について語っています。(幅3.3m、高さ2.4m、奥行き1.1m【台座含む】)



コラボ弘大1階に設置されたアースビジョン。360度自由な視点で地球を見ることができる



「幸せのリング」の除幕式で、作品に込めた思いを説明する
宮田亮平東京藝術大学長

しみで、わくわくしながら待っておりました。今回制作していただいた記念モニュメント「幸せのリング」には、弘前大学の創立60周年にちなみ、宮田先生のモチーフであるイルカが60頭も配されています。これは宮田先生の作品の中でも大作になるのではないのでしょうか。おかげさまで、地域の皆さんからも注目され、この作品を見るために足を運んでくださる方もいます。これは弘前大学の誇りですね。

宮田先生には記念式典の後に行われた記念学術講演会でも講演をお願いしたのですが、「ときめきを伝えるとき」と題したお話もたいへん素晴らしいものでした。

——今後予定されている創立60周年記念事業についてご紹介ください。

今回の創立60周年記念事業は、「学生参加」も大きな柱の一つとして謳っています。記念式典の運営もそうですが、この秋以降は総合文化祭、芸術祭、言語力大賞、スポーツ大会、レクリエーション大会など、より学生を主体とした事業が目白押しとなります。10月には学生シンポジウムが開催されますが、テーマは「私が学長になったら」だそうです。私も学生たちと一緒に壇上で発言し合いますが、ユニークな意見が出そうで楽しみです。

生き残りをかけた 魅力ある大学づくり

——創立60周年記念式典は弘前大学フィルハーモニー管弦楽団の祝奏で幕を開けましたが、弘大フィル

の演奏は評価が高いですね。

弘大フィルによる厳かな祝奏と、感動的な記念歌の演奏は、来賓の方々からお誉めの言葉をいただきました。その中のお一人、銭谷文部科学事務次官(当時)には、後日東京で開かれた国立大学協会総会の懇親会の席で「弘前大学のフィルはすごく立派だ」とおっしゃっていただきました。また、宮田先生からも同様の言葉をいただきました。大学は研究と教育の機関にとどまらず、文化や芸術の発信にも力を注ぐ必要があると思います。宮田先生は「高等教育の中に、文化とか芸術という言葉がないのはおかしい」と常々おっしゃっていますが、その宮田先生に「弘大のオーケストラは素晴らしい、こういうものを育てなくてはいけない」と高く評価いただきました。欧米では、大学のステータスとい

えば、オーケストラと出版会です。北海道・東北には14の大学がありますが、その中で出版会とオーケストラを有する大学は北海道大学、東北大学、そして本学です。これは誇れることだと思っています。

——創立60周年記念事業の一つとして、弘前大学出版会から記念誌も発行されました。

弘前大学出版会は、国立大学法人化直後の2004年6月、全国初となる国立大学法人の学内組織として発足しました。教育研究活動の補助活動という位置づけで運営されていますが、意欲的な活動が評価され、発足3年後の2007年5月には、堅実に運営している出版会だけが加盟できる大学出版部協会にも加盟することができました。創立60周年記念事業としては、



弘前大学創立60周年記念会館 コラボ弘大

地域連携・産学連携の 拠点が生誕

文京町キャンパス内のコラボレーションセンター隣に建つ、地上8階建てのビル。

名称の公募には全国から122件の応募があり、その中から選ばれたのが、弘前市の主婦・福田栄子さんの命名による「コラボ弘大」です。コミュニティーの「コ」とレンタルラボの「ラボ」を合わせ、さらにコラボレーションの「コラボ」とを重ね合わせたネーミングは、読みやすく覚えやすく、親しみやすい印象。共同研究施設という建物の性格から、大学と市民の懸け橋になり、両者が共有する施設であってほしいとの願いを込めて名付けたそうです。このビルにレンタルラボなど社会連携関連施設を集中的に配置することにより、地域連携・産学連携の拠点として活用していきます。また、直径1.5mの大型球体スクリーンに、全世界の地震データ及び気象データなどを映し出す「アースビジョン」を設置し、本学教員の研究・開発の成果を公開すると同時に、児童・生徒の科学への関心向上を目指しています。



青森県西目屋村に開設した「白神自然観察園」

60周年史編纂専門委員会を組織し、記念誌として「弘前大学六十年史(通史・資料編)」、「弘前大学創立六十周年記念ビジュアル版」、そして「弘前大学歴代学長告辞集」の3冊を出版しました。

——大規模な施設整備も進められていますね。

1つは、世界自然遺産の白神山地の近くに開設した「弘前大学白神自然観察園」です。白神山地の自然と、そこに営む地域の人たちの生活をテーマにした教育と研究の場となります。民間からの借用地ですが、18haにも及ぶ広さの植物園は、我が国最大規模を誇ります。

2つめは、青森県のエネルギー基地としての一翼を担うべく、今年3月に青森市に開設した「北日本新エネルギー研究セン



青森市に開設した弘前大学の新しい研究開発拠点「北日本新エネルギー研究センター」

ター」です。原子力や化石燃料によらない自然エネルギーの研究センターは、日本初です。

さらに、本学医学部附属病院では、我が国初の緊急被ばく医療を担う「高度救命救急センター」の開設を目指しています。これは文部科学省と青森県の強力な支援の下に立ち上がった事業「緊急被ばく医療人材育成プロジェクト」の取り組みの一つで、「緊急被ばく医療に関する協力協定」を独立行政法人放射線医学総合研究所と締結し、先進的な研究が進められています。

——2002年の就任以来、学長はさまざまな改革を推進してこられました。

学長に就任してすぐ、私は弘前大学に必要なものは何だろうかと考えました。そ

して、旧帝大が持っていて、弘前大学にないものを調べてみたのです。植物園、出版会、産学官連携の施設…。挙げてみたらたくさんありました。そこで次々と施設整備に着手してきたわけですが、地方の大学が今後存続していく上で、これらの施設が果たす役割は大きいものとなるでしょう。

また、本学にしかない特色を打ち出すことにも力を注ぎました。本学には日本一長いフーコーの振り子が設置され、地球の自転を確認することができます。最先端の地熱利用融雪装置や、太陽電池と風力発電によるハイブリッド灯屋外照明、ソーラー電池時計塔なども構内で見ることができます。そこで、文京町キャンパス全体を博物館として解放しようということで、「弘前大学サイエンス・パーク」と名付け、児童や生徒、住民の皆さんに科学のおもしろさを体感してもらい、関心を高めていただけるよう、さまざまな取り組みをしています。キャンパスを博物館として活用してもらおうという発想は、全国でも例がないと思います。子どもたちの理科離れを食い止めたいという願いとともに、大学をより身近に感じてもらう、入学希望の動機付けの一助とする目的もあります。

——弘前大学がこれから目指す姿について、お聞かせください。

少子化が進み、道州制が議論される中、特徴がなく自立できない大学は、確実に統廃合されていくでしょう。本学のある弘前市は県庁所在地ではありませんし、交通の便もよくありません。東北には国立大学法人が7つありますが、将来的にも新幹線の開通が見込めない地域にある大学は、本学だけです。だからこそ、ありきたりの地方大学ではいけないのです。弘前大学が学生の集まる魅力ある大学になるためには、特徴ある研究や取り組み、充実したキャンパスライフを可能にするなど、他の大学とは違う特徴を出していかなければなりません。60周年という節目の年、その基盤整備は十分にできたと思います。そういう意味で、60周年は一つの締めくくり、総決算なんだと思います。これからの弘前大学は「日本一の地方大学」を目指し、自立していくことが目標です。



弘前大学創立60周年記念式典

弘前大学創立 60周年記念歌

新たな明日へ
踏み出す、感動の演奏

創立60周年を記念して、作詞及び作曲を全国公募し、記念歌を制作しました。公募の結果、作詞は130名の方から172作品の応募があり、香川県在住の辻茂氏の「新たな明日へ」が最優秀作品として選ばれました。その作詞をもとに公募した作曲には89作品の応募があり、宮城県在住の館内聖美氏が最優秀作品として選ばれました。記念式典では、表彰式とともに、式典用に編曲された弘前大学創立60周年記念歌「新たな明日へ」が、弘前大学フィルハーモニー管弦楽団と弘前大学混声合唱団により披露されました。

ふれて・見て・感じて、 ますます科学が身近なものに。 アースビジョンで体感する 生きている地球。

直径1.5メートルの大型球体スクリーンに、さまざまなコンテンツや映像を映し出す「アースビジョン」。小・中・高校の児童や生徒をはじめ広く市民が科学への関心を深めるきっかけづくりに、という趣旨で7月22日、弘前大学創立60周年記念会館「コラボ弘大」の1階にオープンしました。360度の視点から地球の今を捉えたり、その多様な活動をリアルに体感したりする先進システムについて、小菅正裕准教授(理工学研究科附属地震火山観測所)に語っていただきました。



広く市民に開かれた サイエンス・パークの 新たな魅力づくり

アースビジョンの設置は、本学の創立60周年記念事業の一つと位置づけられ、広く市民に開かれたサイエンス・パークにおける拠点づくりという意義も持っています。オープンしてまだ日は浅いのですが、キャンパス見学の高校生や、夏休みを利用して訪れた親子連れなどが高い関心を示していました。

タッチパネルと、指先でコロコロ転がすトラックボールを操作して映像やデータを表示する仕掛けになっており、まさに「ふれて・見て・感じて」科学への興味が増していくのが最大のアピールポイントです。球体スクリーンの右側、65インチの大型ディスプレイにも同じ内容が出ます。また、質問がある、踏み込んだ説明が聞きたい、といったリクエストには理工学研究科のスタッフがお応えする態勢です。

さまざまな観点で世界の 地震活動を表示する 地震モニタリング

たとえば初期メニューの画面から「地震モニタリング」を選べます。これは全世界における地震活動のデータベースを活かすもので、マグニチュード5以上の地震

について発生時期・震源位置(震央)・震源の深さ・規模などが分かります。特定地域を拡大して表示したり、地震ごとの情報を確認したりすることも可能です。

震源の分布は線状あるいは帯状に見えるところが多くあります。これらはプレートとプレートの境目で発生しているものですので、震源分布からプレートの形を知ることができます。海底地形図あるいは火山分布図も表示できますので、海溝に沿って深い地震や火山が分布していることや、海底山脈のある場所には浅い地震が線状に分布することが見て取れます。そういう場所がどこにあるのかを自分で発見すること、また、なぜそうなっているのかと考えてもらうことがアースビジョンの狙いでもあるのです。このように、ワイドかつ多角的な視点で、地球が活動していることを実感できるでしょう。

ちなみにアースビジョンの地震データは、グローバルCMTプロジェクトにより、アメリカのコロンビア大学から電子メールで届くものを利用しています。常に最新の情報をデータベースに加えながら表示する、というのもアースビジョンの特徴です。

理工学研究科が 独自に提供する地動分布図も 注目のコンテンツ

球体スクリーン左側のディスプレイにも



小菅正裕(こすが まさひろ)

理工学研究科附属地震火山観測所
准教授

1981年3月、東北大学大学院理学研究科博士後期課程を退学。博士(理学)。弘前大学理学部助手などを経て現職。専門分野は地震学。地震メカニズムの研究、地震波の散乱と減衰、低周波地震の発生機構などをテーマに掲げる。

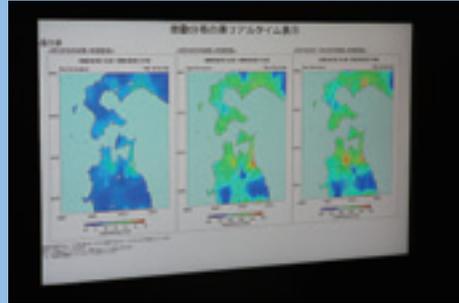


コラボ弘大1階にオープンした「アースビジョン」は、サイエンス・パークの注目スポット

地震火山観測所が収集した青森県と周辺地域の地震データを準リアルタイムで表示



アースビジョンと連動するデータビジョンは、65インチの大型モニターにコンテンツを表示



注目していただきたいですね。私ども理工学研究科附属地震火山観測所では、およそ100カ所の地震計から集めた地面の揺れ（地動）の分布を準リアルタイムで表示するシステムを開発しました。

地震が発生した時以外にも、波浪・風・人工的な振動などで地面は微弱ながら常に揺れ動いています。そうした揺れの状態を捉え、10～5分前の実際の地動の大きさの分布図として表示しているのです。このほか気象庁が発表する緊急地震速報も表示しており、弘前での予測震度、弘前へ主要動（S波）が到達するまでの秒数が分かるようになっています。

ウェザーニュース社からデータ提供を受ける「気象モニタリング」はワールドワイドな気象情報を表示しています。世界各

地に設置したWebカメラの映像、世界の雲の分布、昼夜の分布、そしてケッペンの気候区分図で構成されます。

地震に関することも含め、アースビジョンは「この星ではどのような現象が起こっているのか」を体感できるという点で大きな価値を持ちます。素朴な疑問や知りたい気持ちに応え、より多くの方に科学に親しむ機会を提供していきたいものです。

**さまざまな自然現象の
可視化とともに、
地域に根ざす大学像の
アピールも**

さらにアースビジョンの内容に奥行きを持たせるのが、地域密着の大学としての

多彩な活動を紹介する「地域交流コンテンツ」です。サイエンス・パーク案内をはじめとする大学紹介や「弘前ねぶた」などの地域情報を盛り込んでいます。

壁面に設置した6枚のデジタルフォトビジョンでは、理工学研究科の地球環境学ほかの各専攻分野の研究活動や成果を紹介する画像などを、順次公開していくことになっています。

アースビジョンの今後については、「あんなことを、こんなことを」というニュアンスで述べるなら、いろんな構想が挙げられます。例えば、地震波や津波の伝わり方をアニメーションとして表示できたら面白いと思います。気象については、台風の発生から成長へのプロセスや進路を可視化すれば、より興味深く現象の本質を伝えられるような気がします。地域交流コンテンツは本学のオリジナリティーが強く現れる部分ですので、多くの人に親しまれるよう内容の拡充を図りたいと思います。このようにアースビジョンは今後の発展の可能性を秘めていますので、実際に操作していただいて、こんなことも表示してほしいという声をぜひ聞かせていただきたいですね。



弘前大学創立60周年記念事業を挙行

弘前大学創立60周年記念式典・学術講演会・祝賀会を挙行

弘前大学は、5月31日に創立60周年を迎えました。本学はこれを記念し、6月6日に創立60周年記念式典、学術講演会、祝賀会及び関連事業を挙行しました。

記念式典に先立ち、午前10時から文京町キャンパス内で「太宰治文学碑」除幕式が行われました。太宰治（本名 津島修治）は、本学の前身校の一つである旧制弘前高等学校の卒業生であり、今年が生誕100年にあたります。式には、太宰治の長女 津島園子氏も出席され、遠藤学長と津島氏による文学碑の除幕が行われた後、津島氏は挨拶で「文学碑が、これから巣立っていく学生さんの心にも残ってほしい」と述べられました。文学碑の周りには、弘前大学の徽章にも使用されている牡丹を、学生参加事業の一つである記念植樹として植栽しました。

続いて、午前11時から、産学官連携事業の拠点として同キャンパス内に建設した「創立60周年記念会館『コラボ弘大』」施設披露及びコラボ弘大1階エントランスロビーに設置した宮田亮平東京藝術大学長制作の「金工作品『幸せのリング』」除幕式が行われました。式では、遠藤学長から『コラボ弘大』の命名者 富田栄子氏へ感謝状・記念品の贈呈、遠藤学長と宮田学長による金工作品『幸せのリング』の除幕が行われた後、金工作品『幸せのリング』の制作者である宮田学長から作品の紹介が行われました。

午後2時から、弘前文化センターで記念式典が行われ、関係者約400人が出席しました。式では、遠藤学長が「これからは、弘前大学のモットーである“世界に発信し 地域と共に創造する弘前大学”をより一層高きかかげて邁進する決意である」と式辞を述べ、銭屋眞美文部科学事務次官（当時）、三村申吾青森県知事の来賓祝辞、本学人文学部3年の萩原有希子さんの学生代表祝辞の後、全国公募により制作した創立60周年記念歌「新たな明日へ」が弘前大学フィルハーモニー管弦楽団及び弘前大学混声合唱団により披露され、式典を盛り上げました。

記念式典に引き続き、午後3時50分からは記念学術講演会が行われ、「ときめきを伝えるとき」と題して宮田学長による講演が行われました。参加者は宮田学長の講演に熱心に聞き入り、また、宮田学長の楽しい話術に参加者からは多くの笑いが起こっていました。

記念学術講演会終了後は、会場をベストウェスタンホテルニューシティ弘前に移し、記念祝賀会が和やかに催されました。



太宰治文学碑除幕式での記念植樹



金工作品「幸せのリング」の除幕をする宮田学長（左）と遠藤学長



記念式典で式辞を述べる遠藤学長



記念式典で学生代表祝辞を述べる萩原有希子さん（人文学部3年）



記念式典で記念歌「新たな明日へ」を演奏する弘前大学フィルハーモニー管弦楽団及び弘前大学混声合唱団



記念学術講演会で講演する宮田東京藝術大学長



記念祝賀会での鏡開き

弘前大学名誉博士称号授与式を挙行

6月5日、弘前大学名誉博士称号授与式が事務局大会議室で執り行われ、今回は弘前大学創立60周年を記念して、国際交流の発展に多大な貢献をし、本学の教育研究の進展に顕著な功績のあった4名の方に「弘前大学名誉博士」の称号が授与されました。これにより、本学名誉博士の称号を授与された方は8名になりました。

本学では、学術文化又は国際交流の発展に多大な貢献があり、本学の教育研究の進展に寄与した功績が特に顕著であると認められた方に対し、「弘前大学名誉博士」の称号を授与しています。

名誉博士の称号を授与された方は次のとおりです。

- 金 柄 珉（ジン ビンミン）氏（中華人民共和国 延辺大学総長）
- イオン スプヌレスク氏（ルーマニア ヒッペリオン大学学長）
- アンジェラ ホンドゥル氏（ルーマニア ヒッペリオン大学教授）
- ポール ホリスター氏（弘前大学客員教授）



遠藤学長から名誉博士号を授与された受章者（前列右3人目から、金総長、遠藤学長、ホンドゥル教授、ホリスター博士）

「第4回弘前大学鷹揚さくら会」を開催

6月5日、弘前大学に勤務した事務系・技術系職員と現職員の交流を目的とした「第4回弘前大学鷹揚さくら会」を創立50周年記念会館みちのくホールで開催しました。

第4回となる今回は、弘前大学創立60周年記念事業の一環として行われ、総会では名誉会長である遠藤学長の挨拶に続いて、会長である渡辺理事（財務・施設担当）から「弘前大学この1年のあゆみ」と題し講演が行われました。

引き続き、大学会館に場所を移して行われた懇親会では、遠藤学長、OBを代表して吉田豊前学長、工藤敏夫元事務局長が挨拶し、鈴木尚元事務局長の発声で乾杯した後、集まった約70名の参加者は弘前大学での思い出などで和やかに歓談し旧交を温めていました。



鷹揚さくら会に出席したOB

弘前大学サイエンス・パーク 「アースビジョン」オープニングセレモニーを開催

本学は、弘前大学創立60周年記念事業の一つとして、全世界の地震データや気象データなどを球体スクリーンに投影する「アースビジョン」を設置しました。これを記念し、7月22日、創立60周年記念会館「コラボ弘大」でオープニングセレモニーを開催し、本学関係者約40名のほか、教育学部附属小学校の5、6年生16名が出席しました。

「アースビジョン」は、小・中・高生の児童・生徒へ科学に対する関心を深めてもらうことを目的に本学が進めるサイエンス・パークの一つとして設置されたもので、直径1.5mの大型球体スクリーンに最新の地震情報や気象情報をモニタリングできるほか、本学の地域交流活動を紹介するコンテンツも見るすることができます。

オープニングセレモニーでは、遠藤学長の挨拶の後、遠藤学長と渡辺理事（財務・施設担当）による除幕式が行われ、引き続き小菅理工学研究科准教授から「アースビジョン」の特徴や取り扱いについて説明があり、操作した附属小学校児童の関心を引いていました。

「アースビジョン」は、創立60周年記念会館「コラボ弘大」の1階に設置されており、公開時間は平日の午前10時から午後4時まで。どなたでも自由に見学することができます。



アースビジョンを紹介する小菅准教授と操作する附属小学校児童

「科学者発見プロジェクト」第2回テーマ賞表彰式及び第1回共同研究体験発表会を開催

本学は、弘前大学創立60周年記念事業の一つとして、「科学者発見プロジェクト」を実施しています。この事業は、子供たちの物事に対する「疑問や興味、アイデア等」を青森県内の小・中・高生から広く求め、その提案に基づいた研究テーマを本学研究者と共に体験する双方向的なものです。

第2回となる今年度の研究テーマ募集では、28件（61名）の応募テーマの中から、発展性、意外性、独創性に優れた研究テーマ「お腹がすくとなぜイライラするのか（小学校6年）」をはじめ13件（小学校3件、中学校5件、高校5件）がテーマ賞として採択され、8月4日、創立60周年記念会館「コラボ弘大」において表彰式が行われました。学校関係者や保護者などが見守る中、遠藤学長からテーマ賞受賞者に表彰状が授与され、受賞者を代表して中泊町立薄小小学校5年のみなさんから受賞のお礼がありました。

引き続き、昨年度実施した第1回「科学者発見プロジェクト」テーマ賞受賞者の共同研究体験発表会が行われました。「農業による水素生産及び燃料電池への利用（青森県立久井農業高等学校）」など6件の研究成果が発表され、その充実した内容は本事業が目指す未来の「小さな科学者」を期待させるものでした。子供たちにとっては、自身が提案した研究テーマの「謎を解き、関心事を探索するプロセス」を研究者と共に体験することで大学を身近に感じる機会となり、研究者にとっては、思いもよらない視点からの疑問やアイデアを知り、研究活動のよい刺激となっていました。



テーマ賞受賞者及び共同研究体験者の皆さん

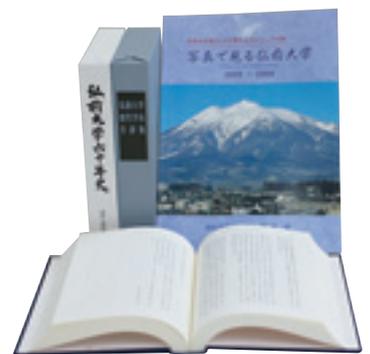
弘前大学創立60周年記念誌を発刊

本学は、弘前大学創立60周年事業の一環として「弘前大学六十年史（通史・資料編）」、「創立60周年記念ビジュアル版」及び「弘前大学歴代学長告辞集」の3記念誌を弘前大学出版会より発刊しました。

記念誌の編纂に際しては、三浦理事（社会連携・情報担当）の下に六十年史編纂専門委員会が組織され、約1年半に及び編纂作業が行われました。

「弘前大学六十年史（通史・資料編）」と「創立60周年記念ビジュアル版」は、「弘前大学五十年史」（通史・資料編及びビジュアル版：平成11年発刊）の補遺版として編集され、平成11年から平成21年にかけての10年間の歩みが記載されています。特に平成16年の国立大学法人化前後の記述には、行財政改革、少子化、情報化などの社会背景の中で地方の中規模総合大学が取り組んできた様々な改革を如実に読みとることができます。別編の青森県知事と遠藤学長の記念対談からは、地域と大学の強い連携がうかがえます。

また、「弘前大学歴代学長告辞集」は、昭和24年の開学式から平成21年に至る12人の学長の入学式、卒業式等での告辞が収められており、60年にわたる歴代学長の思いや考えが綴られ、時代背景も浮かんでいきます。



平成20年度弘前大学学位記授与式を挙行

3月24日、平成20年度弘前大学学位記授与式が弘前市民会館において厳かに行われました。

始めに遠藤学長から各学部代表の学生に学位記が手渡され、遠藤学長の告辞の後、安達弘潮名誉教授の指揮のもと弘前大学フィルハーモニー管弦楽団及び弘前大学混声合唱団による「弘前大学学生歌」が演奏され、最後に「ほたるの光」を出席者全員で斉唱し、滞りなく式典を終えました。当日は天候にも恵まれ、卒業生の門出を祝福しているようでした。

式典終了後、市民会館前の駐車場では、記念写真におさまるグループや、後輩達から胴上げの祝福を受けるグループなどの、いつもながらのほほえましい風景が見られました。

また、大学院学位記授与式は、同日創立50周年記念会館みちのくホールにおいて、教育学部附属学校園の卒業式・卒園式は、小学校が3月14日、中学校が3月5日、特別支援学校が3月11日、幼稚園が3月13日に各学校園においてそれぞれ執り行われました。



学位記授与式

平成21年度弘前大学入学式を挙行

4月7日、平成21年度弘前大学入学式が弘前市民会館において厳かに行われました。

これからの大学生活に期待を膨らます新入生やその保護者が待ち受ける中、式典は弘前大学フィルハーモニー管弦楽団の演奏で始まり、遠藤学長の告辞、新入生代表による学生宣誓の後、安達弘潮名誉教授の指揮のもと弘前大学フィルハーモニー管弦楽団及び弘前大学混声合唱団による「弘前大学学生歌」が演奏され、晴れの式典が終了しました。

当日は好天にも恵まれ、市民会館前の駐車場では、記念撮影する保護者や、サークルへ勧誘しようと様々な趣向を凝らして集まった学生などの、いつもながらの賑やかな歓迎風景が見られました。

また、大学院入学式は、同日創立50周年記念会館みちのくホールにおいて、教育学部附属学校園の入学式・入園式は、中学校が4月6日、小学校が4月8日、特別支援学校が4月9日、幼稚園が4月10日に各学校園においてそれぞれ執り行われました。



学長告辞



新入生代表による学生宣誓

「弘前大学表彰」表彰式を挙行

6月1日、「弘前大学表彰」表彰式が事務局大会議室において執り行われ、教育研究活動、医療活動、職員の規範となるような活動において顕著な功績があった教職員(個人及び団体)に対し、遠藤学長より表彰状及び記念品が授与されました。

この表彰は、教育研究活動、課外活動振興支援、医療活動、教育研究支援活動、大学改革の推進、社会活動、職員の規範となるような活動において顕著な功績があった教職員等に対し、「弘前大学表彰」により表彰するものです。

今回「弘前大学表彰」を受賞した個人及び団体は次のとおりです。

【個人】

○吉澤 篤(理工学研究科 教授)

液晶材料の研究開発において、ブルー相Ⅲという特殊な液晶相の温度幅拡大に成功、また学生及び院生の教育にも尽力し、優秀な研究者を育てあげたことによる、教育研究活動における顕著な功績

○笹川 和彦(理工学研究科 教授)

電子パッケージに関する研究において、高集積回路等の電子デバイスに用いられる微細金属配線を対象として、信頼性を評価する方法を開発したことによる、研究活動における顕著な功績

○古屋 泰文(理工学研究科 教授)

遠心鋳造法を用いた金属ガラス製品の作製、並びに医療用材料向け高性能TINI系形状記憶合金の開発等、数々の材料における先進的な研究開発をしたことによる、研究活動における顕著な功績

【団体】

○医学部附属病院 泌尿器科スタッフ

泌尿器科における新術式の開発に一丸となって取り組み、ミニマム創前立腺摘除術や膀胱全摘・回腸新膀胱形成術という新たな摘除術をいち早く確立したことによる、医療活動における顕著な功績

○弘大ライナース

本学の教職員で構成される野球チームとして、精力的に各野球大会へ参加し、特に弘前市朝野球大会には連続四十年出場し続け、長年にわたり教職員の親睦を深め、また地元地域との交流を図る等、本学職員の模範となる活動による顕著な功績



遠藤学長(下右3番目)及び表彰を受けた方々

弘前大学名誉教授称号授与式を挙行 ～村田俊一氏ら9名に名誉教授の称号を授与～

6月1日、弘前大学名誉教授称号授与式が事務局大会議室において執り行われ、本学において教育上又は学術上特に功績のあった9名の本学元教授に「弘前大学名誉教授」の称号が授与されました。これにより、本年4月1日現在における本学名誉教授の称号を授与された方は243名になりました。

名誉教授の称号を授与された方々は次のとおりです。

村田 俊一（人文学部）	北田 俊之（教育学部）	加地 隆（医学研究科）
三浦 秀春（保健学研究科）	雨森 道紘（理工学研究科）	高橋 秀直（農学生命科学部）
小原 良孝（農学生命科学部）	宇野 忠義（農学生命科学部）	佐々木大輔（保健管理センター）



北日本新エネルギー研究センター開所式・開所記念シンポジウムを挙行

本学が新たに設置した「北日本新エネルギー研究センター」は、他大学と連携しバイオマスなどの自然資源を活用した新エネルギーの研究開発拠点として、低炭素社会実現と地域の新産業創出を目指すこととしています。

6月30日には、開所式が同センター（青森市）において挙行され、関係者約80名と共に開所を祝いました。開所式では、遠藤学長が「センター関係者一丸となって、実現可能な研究に邁進し、いち早く成果を挙げると共に、青森県が未来のエネルギーの研究・開発の拠点となることを念じたい」と式辞を述べた後、同センターを担当する南條学長特別補佐からセンターの研究内容や教員組織などの概要説明とともに今後の活動への抱負が語られました。

また、7月24日には、開所記念シンポジウムが「新エネルギーと地域産業創造」をテーマにホテル青森（青森市）で開催され、関係者・研究者約140名が参加しました。参加者は、新エネルギー研究開発推進の必要性や新エネルギー利用システム技術に関する現状と課題等について講演者の発言に熱心に聞き入っていました。



開所式で式辞を述べる遠藤学長

弘前大学“ねぶたまつり”に連続46回目の出陣 ～『弘前ねぶた保存会長賞も受賞』～

津軽地方の伝統行事「弘前ねぶたまつり」が8月1日から7日間行われ、今年も弘前大学のねぶたが参加し、46年連続の出陣を果たしました。

運行には、遠藤学長をはじめ多数の教職員、学生、外国人留学生、附属学校園の園児・児童・生徒、近隣町会の子供たちが参加し、「ヤーヤドー」の勇ましいかけ声と共に堂々と弘前市内を練り歩き、津軽の夏祭りを盛り上げました。小型ねぶたや灯籠を従えた極彩色の鏡絵「于吉仙人の霊孫策を悩ます」、見送り絵「呉夫人」、袖絵「風神・雷神」を描いた高さ約7mの勇壮なねぶたは、沿道の観客から大きな喝采を受けました。

更に、今年は「弘前ねぶた保存会」より、本学ねぶたが、①大学として昭和39年以来46年にわたり他の国立大学に先駆け地域の祭りに参加し続けていること、②参加当初からのねぶた絵を保存しており、このねぶた絵を大学出版会から画集として出版していること、③多くの留学生がねぶたに参加し、国際交流を図っていることなどが評価され、『弘前ねぶた保存会長賞』を受賞しました。



学長、理事等による出陣式の鏡割り



先導を務める遠藤学長（右）と倉田岩手大学理事（左）



観客を魅了する大太鼓



勇壮な弘前大学ねぶた

平成21年度オープンキャンパス開催

8月7日、「弘前大学オープンキャンパス」が開催されました。県内外の高校生、保護者等を含めて約4,500名が参加しました。

オープンキャンパスでは、模擬講義、実験実習体験、なんでも相談コーナー、「先輩と語ろう」コーナーなど多彩な企画があり、参加者は様々な企画に参加して弘前大学の雰囲気を感じ取っていました。

また、キャンパス内の歴史的な建物や各学部を紹介するキャンパスツアーの実施、総合情報コーナーでは高校生らの関心が高い入試情報、奨学金、学生寮、就職情報などについて担当者がわかりやすく説明を行いました。

毎年恒例となった特別企画「学長と話そう」は今年も盛況で、遠藤学長が多くの高校生らと懇談を行いました。学長と懇談した高校生らは、本学の教育理念、魅力などについて理解を深め、本学への進学意欲を高めていました。



遠藤学長と懇談する参加者

被ばく医療に特化した コメディカルスタッフの育成と 医療体制の整備を目指す。

多くの原子力関連事業を抱える青森県。緊急被ばく医療に対応する体制を整えることは、必要不可欠になっています。現在、弘前大学大学院保健学研究科を中心に「緊急被ばく医療人材育成プロジェクト」を推進中です。その概要について紹介します。

地域の特殊性を踏まえた 日本初のプロジェクト

青森県には核燃料再処理工場をはじめとする原子力関連事業所が集中しています。けれども、万一被ばく事故が発生した場合の医療体制の整備は、これまで図られてきませんでした。環境負担の小さいエネルギー政策が求められているいま、被ばく医療体制の整備は国家の基盤をなす事業であり、緊急の課題です。

緊急被ばく医療には高度の医療が必要とされますが、被ばく患者の看護や、汚染対策や除染、被ばく線量測定などの特別な対応に関わるコメディカル（医師以外の医療従事者）の人材育成の取り組みも、同時に求められます。弘前大学では平成19年6月から、大学院保健学研究科を中心にコメディカルの人材育成に取り組んでいます。対馬均保健学研究科長は「当時、弘前大学では、有事の際の緊急被ばく医療を柱の一つとする『高度救命救急センター』の設置構想が進められていましたが、学長説明会の席で遠藤学長がコメディカル教育の必要性を説かれ、保健学研究科がその役割を担うことになったのです」と、その経緯を説明します。

手探りで始まった 緊急被ばく医療教育

弘前大学医学部保健学科には、看護師、診療放射線技師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士の5つの職種を養成する専攻科が揃っています。これは、被ばく医療に関わる人材を育成する上で、大きな強みといえます。こうした特色を生かし、5つの専攻がスクラムを組み、被ばく医療教育を実施することになりましたが、国内には前例のないプロジェクトのため「最初は手探りの状態でした」と対馬保健学研究科長は振り返ります。まず、保健学研究科に教育、研究、情報のワーキンググループをそれぞれ立ち上げ、先進施設である千葉県の（独）放射線医学総合研究所・緊急被ばく医療研究センター（以下、放医研）にも協力を求めました。

初年度は放医研での研修や関連施設の視察見学が主でしたが、平成20年度から取り組みが本格化します。文部科学省特別教育研究経費（連携融合事業）として認められ、日本原燃株式会社、放医研、広島大学、長崎大学との連携・融合による緊急被ばく医療の基盤となる体制整備が5カ年計画で進められることになったのです。

平成20年度は、被ばく医療の現状を知ることを目的に、研修事業を強化。この分野の先進国であるフランスやアメリカにも人材を派遣し、高度な知識と技術を持つ専門家を養成するとともに、国際的な人事交流の機会を設けました。

蓄積した知識と技術を 学内から学外へ広げる

これまでは被ばく医療に関わる教育者や研究者の養成に重点を置いてきましたが、来年度から学部と大学院の教育カリキュラムに関連する科目を盛り込めるよう、現在検討を進めています。学部教育では基礎的知識を有する医療者の育成を目的に、放射線の基礎、緊急被ばく医療の概要を学べる2科目を必修科目の中に盛り込む予定です。大学院教育では、修士課程に被ばく医療コースを設け、緊急被ばく事故に対応できる人材の育成を目指します。現職者を対象とした専門家教育については、来年度からは看護師や診療放射線技師を中心に、学外向けの教育・研修を実施することになっています。これらの教育カリキュラム編成に関しては、国

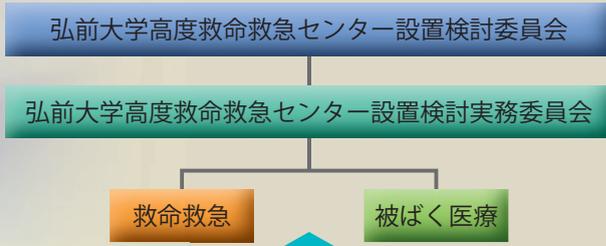


放医研での被ばく医療セミナー

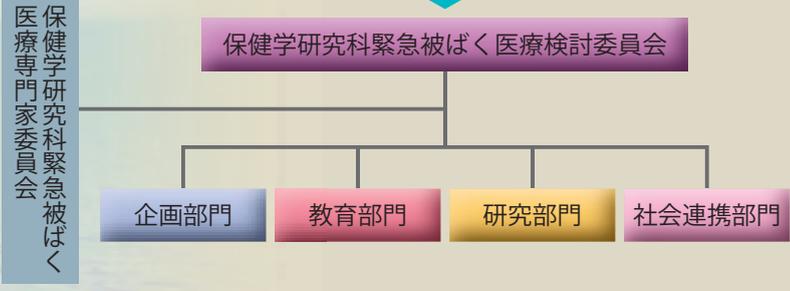


8月に開催された「第1回緊急被ばく医療国際シンポジウム」

全学委員会



保健学研究科委員会



平成21年度の活動組織。今年度からは、企画、教育、研究、社会連携の4部門に再編し、部門間の連携による活動を進めています。

内の有識者で構成した専門家委員会による外部評価を受けながら進められています。「現状を知り、課題を積み上げることから始めていき、それを教育に生かしていきたい」と対馬保健学研究科長は語ります。

また、今年8月1日には、フランスや中

国をはじめ国内外から専門家を迎えて、緊急被ばく医療国際シンポジウム「放射線基礎研究から緊急被ばく医療まで」を開催しました。事例の少ない被ばく事故について、現状を紹介する講演が行われるなど、意義ある内容となりました。

恵まれた研究環境を生かし 人材育成に貢献する

本プロジェクトに取り組むにあたり、保健学研究科には緊急被ばく医療検討委員会が組織され、教育、研究、社会連携など役割を分担しています。その中で、緊急被ばく医療に関する研究体制の整備を目的に活動しているのは、柏倉幾郎教授をリーダーとする研究部門です。柏倉教授は10年以上にわたり、ヒトの造血幹細胞を使った研究に取り組んでいます。「ヒト造血幹細胞の放射線感受性には著しく個体差があるのですが、それは何に起因しているのかが分かっていません。これが解明されると、放射線の感受性を制御できたり、個々の感受性に合わせた放射線治療が可能になったりするかもしれません」と、研究の意義を語ります。また、研究を進める上で、弘前大

学は恵まれた環境にあるとも話します。「研究用に提供される臍帯血は数少ないのですが、我々は直接、国立弘前病院から臍帯血をもらい、そこから細胞を分離して研究に使用できます。

こうした強みを生かしながら成果を生み出し、人材育成をしていくことが本プロジェクトの目的です。「学生にどんどん研究をさせ、学会発表など国際経験をさせることを活発に行いたい。さらには看護師や診療放射線技師など現職者に向けて、研究テーマを持ち込むことも必要になってきます」と柏倉教授は話し、さらなる研究の発展を目指しています。



対馬 均 (つしま・ひとし)

大学院保健学研究科長・理学療法士、博士(医学)

1950年生まれ。専門分野は理学療法学、高齢者の運動・動作の老化と予防、パーキンソン病の地域ケア。

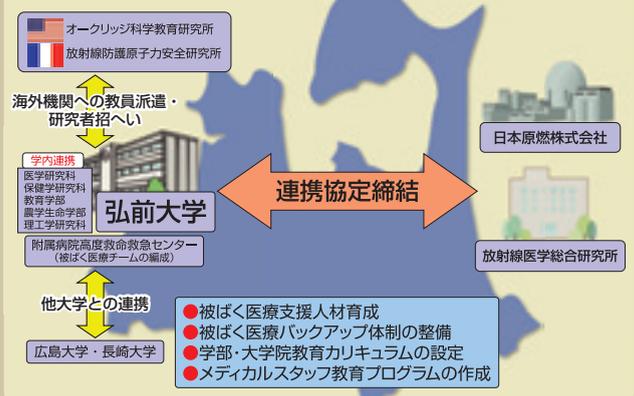


柏倉幾郎 (かしわくら・いくお)

大学院保健学研究科教授・博士(薬学)

1954年生まれ。専門分野は放射線科学、生物系薬学、血液内科学、放射線・化学物質影響科学。

緊急被ばく医療支援人材育成及び体制の整備



若き日の太宰治、津島修治が はぐくんだ本学との縁。 青春の肖像写真、 文学碑にも思いを馳せて。

本学が創立60周年を迎えた今年、官立弘高の卒業生であり、津軽の生んだ小説家・太宰治（本名＝津島修治）の生誕100周年にも当たります。1909（明治42）年、現在の五所川原市（旧北津軽郡金木町）に生まれた太宰は県立青森中学校を経て1927（昭和2）年、官立弘前高校の文科甲類へ入学。学業のかたわら文学への傾倒を深め、後の作品群へ連なるバックグラウンドを形成していったと見られます。また本人の写った未発表写真が官立弘高の資料群から発見されたという事実が、4月に公表されました。丸刈りで、あとけなさが残る若かりし日の姿が印象的な一枚です。そして6月6日には創立60周年記念事業の一つである、太宰治文学碑の除幕式。かの名作「津軽」から引用した、人生の旅立ちを示唆するかのような一節が碑文として刻まれています。

緑の木立に抱かれた太宰治文学碑



長谷川成一（はせがわ せいいち）

附属図書館長・人文学部教授

1973年、東京大学大学院人文科学研究科修士課程国史学専攻を修了。東京大学史料編纂所を経て弘前大学人文学部へ。1991年、毎日出版文化特別賞。学位論文「近世国家と東北大名」により、東京大学から学位を授与（文学博士）。2008年から附属図書館長を兼務。「失われた景観一名所が語る江戸時代」（1996年／吉川弘文館）ほか著書・共著・編著・監修・編著書が多数。日本歴史学会評議員など学外活動にも意欲的。

昭和2年4月の 入学者アルバムから

その一枚は、いうなれば「青春の肖像」と呼べるものだと思います。本学の卒業生に名を連ねる故・津島修治氏、すなわち太宰治の若かりし日の写真が官立弘高の資料から出てきたのは本当に驚きで、感慨深い出来事でした。

タテ87mm・ヨコ56mmのモノクローム版には文科甲類へ入学した津島氏が、まぎれもなく写っていました。昨年8月なかば、附属図書館と本学院生のメンバーで構成する官立弘高資料整理チームが、昭和2年4月入学者の写真アルバムに収まっているのを発見したのです。撮影されたのは官立弘前高校へ入学する前で、17歳の時でした。入学者選抜試験のため、いわゆる証明写真として青森市内の写真館で撮ったと推定されます。

太宰文学の研究に 貴重な値打ち

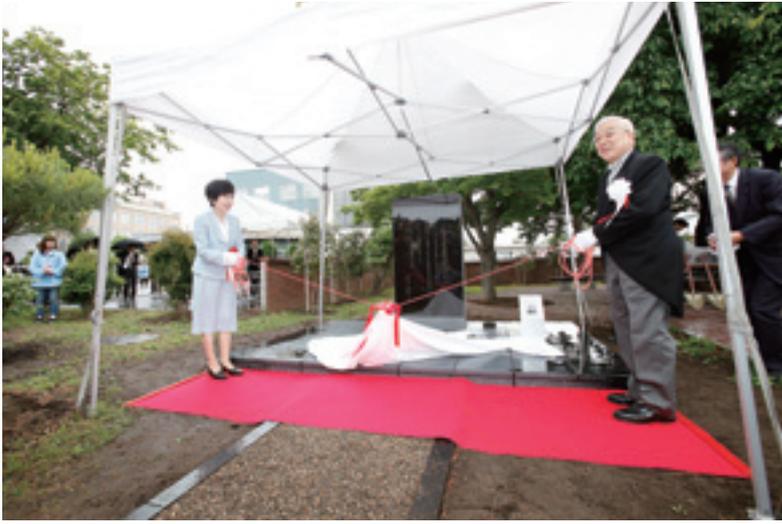
左胸のバッジは、旧制青森中学で平均85点以上の成績優秀な生徒だったことを表しています。頭髪を短く刈り込み、しつ

かりと前を見据えている構図の写真は、もしかして未発表ではないだろうか、と私は直感しました。そうだとすれば、後に太宰治として幾多の名作を残した小説家の人となり、あるいは作品を読み解く貴重な手掛かりが得られるかもしれない、とも推察しました。

さっそく事実関係を解き明かすべく日本近代文学館や東京大学、早稲田大学といった学術機関へ照会するなどの確認作業を重ねた結果、未公開の写真であることが判明したのです。そして4月15日の記者発表に際しては、ご遺族の意向を踏まえて対応させていただきました。本学を訪れて写真を目にした長女、津島園子さんからは「父の青春時代が目の前によりみがえってきたようです。入学時の希望に満ちた表情を見つめていると、その後の苦悩の日々、文学との壮絶な戦いを思い合せて涙が出そうな感動を覚えました」とのコメントが寄せられています。

官立弘高の 資料1055点も明らかに

1930（昭和5）年、東京帝国大学文学部仏文科へ進んだ津島氏に関する資料



太宰治文学碑の除幕をする津島園子さん(左)と遠藤学長



太宰治
(故・津島修治氏)の
「青春の肖像」



官立弘前高校などに関する貴重な資料は、附属図書館の「貴重資料保管室」に収納

としては、学籍簿や成績表も新たに見つかっています。また生徒性向表というファイルには学習態度、日常生活などに関する教員の所見が書き込まれていました。

はやくから文学の才覚を顕していた津島氏は在学時、弘高新聞や校友会雑誌へ「小菅銀吉」などのペンネームで小説を発表するなど健筆を奮っていました。多感な青年期を過ごしていただけに私としては、やがて数々の名作へ連なる精神の軌跡が垣間見えるような気がします。いわば太宰文学のエッセンスの萌芽が、この時期に生じていたという解釈が可能かもしれません。

こうした津島氏に関する文学史的な記録とともに、往時の高等教育を公的に伝える資料群へスポットが当てられた点も極めて意義深いですね。それらは大正10年に始まる官立弘前高校の歩みを迎えるもので、わが国の大学史においても第一級の値打ちを有すると考えられます。

1950(昭和25)年の閉校に至るまで、4700人余もの卒業生を輩出した事実を照らし合わせると、わが国の近代におけるエリート育成を実証的に知る手掛かりとなるでしょう。多岐にわたる資料は戦時中や新制大学への移行期を経ても散逸せ

ず、良好な状態で残されていました。本学の草創に端を発して歴史や伝統の証を後世へ伝えていこうという教職員の意思、精神性が連綿と受け継がれてきたのは喜ばしいですね。一連の調査で明らかになった1055点は「官立弘前高等学校資料目録」(弘前大学附属図書館編)に記載されています。

さらに附属図書館の貴重資料を調査する過程で「津軽領元禄国絵図」の写しが発見されました。南北3m8cm・東西3m96cmの大きさで、当時の津軽領が狩野派の絵師によって描かれています。領内の地理、経済事情などを把握できる貴重な資料の存在も特筆すべきことですね。

「津軽」序章の一節を文学碑へ

太宰と本学との縁を恒久的に伝えるために文学碑が建立され、その除幕式が6月6日に行われました。場所は、旧制弘前高等学校外国人教師館の南側。正門にも近く、緑の木立に抱かれた一隅です。

開学60周年というエポックに際し、その記念事業としての位置づけを持たせることに御遺族が快く了解していただきまし

た。おかげ様で、昭和19年の作品「津軽」から序章の一節を引用して碑文を刻むことになりました。

私には、また別の専門科目があるのだ。世人は假にその科目を愛と呼んでゐる。人の心と人の心の觸れ合ひを研究する科目である。

私はこのたびの旅に於いて、主としてこの一科目を追及した。

この碑文の選定に際しては、津島園子さんの意向を最大限に尊重しました。そして人生へ寄せる太宰の真摯な思いが凝縮された言葉の連なりで、津島さんご自身が最も好きだという一節を碑文に決めさせていただきました。



青森県における小・中・高等学校を対象とした教育力向上プロジェクト

ーラボ・バスを用いた教育実践ー

本プロジェクトは、弘前大学と青森県との包括協定の下、青森県教育委員会等と連携して、下北・三八地域等も含めた県内各地の教育現場において、本学教育学部独自の移動教室用実験バス（ラボ・バス）を活用し、児童・生徒に「学び」の楽しさを伝えるとともに、現職教員等に対する研修の場の提供、教員を目指す本学学生の多様な教育実践の場とすることで、青森県全体の教育力向上を目指すものです。昨年度はいくつかの授業を各地で試行的に実施しましたが、今年度からラボ・バスを用いた教育実践を県内の小・中・高等学校において本格実施しています。



弘前大学創立60周年記念事業の今後の予定

■ 創立60周年記念 第9回 弘前大学総合文化祭

創立60周年という節目を迎えた弘前大学が、今年も恒例の「大祭」を開催します。

期 間：平成21年10月23日（金）～25日（日）

場 所：弘前大学文京町キャンパス

テーマ：PARADISE

内 容：知の創造（各学部等の特徴的な研究をわかりやすく紹介）、各種展示・模擬店、よさこい弘大、駅伝大会、職員芸術・造形作品展、学長主役イベント、花火 他

■ 創立60周年記念事業シンポジウム「縄文遺跡群の世界遺産登録に向けて」

日 時：平成21年10月24日（土）10：00～15：30

場 所：弘前大学創立50周年記念会館みちのくホール

対 象：一般

参加費：無料

■ 創立60周年記念演奏会

弘前大学の創立60周年を記念して、弘前市と八戸市において、弘前大学フィルハーモニー管弦楽団による記念演奏会を開催します。

【弘前会場】日 時：平成21年11月22日（日）18：00～

場 所：弘前市民会館

【八戸会場】日 時：平成21年12月6日（日）14：00～

場 所：八戸市公会堂

■ 学生参加事業

・美術部 関根展

期 間：平成21年11月11日（水）～13日（金）

場 所：弘前大学創立50周年記念会館会議室

・書道クラブ 大学書道展

期 間：平成21年11月20日（金）～22日（日）

場 所：弘前市立百石町展示館

・スライドミュージック 定期演奏会

日 時：平成21年11月30日（月）19：00～

場 所：弘前大学創立50周年記念会館みちのくホール

・ジャズ研究会 Winter Concert

期 間：平成21年12月10日（木）～12日（土）

場 所：弘前大学学生会館大集会室

・クラシックギタークラブ定期演奏会

日 時：平成21年12月12日（土）17：00～

場 所：弘前大学創立50周年記念会館みちのくホール

・邦楽愛好会 クリスマスコンサート

日 時：平成21年12月19日（土）14：00～

場 所：弘前大学創立50周年記念会館みちのくホール

・弘前大学吹奏楽団 定期演奏会

日 時：平成21年12月25日（金）17：00～

場 所：弘前市民会館

弘前大学出版会からのご案内

国立大学法人弘前大学

仕事のしおり 平成21年度版

弘前大学財務・施設担当理事 小川清四郎編



A4判・286頁
定価 2,000円
(本体1,905円)

「明るく」「楽しく」「一生懸命」大学のために仕事ができるように。国立大学法人化後の管理運営や経営を支えていくためには、幅広い知識と志の高い意識を持った専門職としての事務職員が求められている。そのためには、「事なかれ」「前例踏襲」「規則万能」「年功序列」のような主義主張を改め、意欲・識見・能力ともに高い専門職集団に成長させることが必要である。弘前大学は、平成16年度の法人化を契機に事務改善・改革を行ってきており、その一環として、弘前大学の職員が初心者向けに本書を執筆した。改革は、意識改革に始まり意識改革で終わると言われている。まず、本書を読んで基礎的な業務内容を理解し、知識として身につけて、業務執行上の非効率・不適切なシステムを改善するための一助として活用してほしい。

写真集

続 弘前界限

今泉忠淳著



A5判・50頁
定価 1,470円
(本体1,400円)

平成も21年となって昭和もすっぴやく遠くなり、弘前の昭和の風景も随分失われてしまいました。この写真集は、平成17年（2005年）に当会から出版された「弘前界限 1989-1991」の続編で、弘前の町で撮影した銀塩モノクロ写真50枚からなります。「川口の染物屋さん」「奥太の下駄屋さん」「工友の履物屋さん」「第二大成小学校」などのすでに解体された建物をはじめ、もう見る事ができない光景の写真が掲載されています。昭和時代の弘前を知る人には、「懐かしいなあ」と記憶や連想につながる写真があるかもしれません。

官立弘前高等学校資料目録

一北溟の学舎の資料群一

弘前大学附属図書館編



B5判・94頁
定価 3,990円
(本体3,800円)

本年（2009）、弘前大学は創立60周年を迎えた。本書を編集した附属図書館も開学と同時に開設されたので、60年の星霜を重ねたことになり、本書は開館60周年を記念する一冊といつてよからう。附属図書館では、昨年、本学の所蔵されていた官立弘前高等学校の資料群の調査・整理作業を実施し、このたび弘前大学出版会から同資料目録として上梓した。本書は、目録類にありがちな無味乾燥な内容とせず、未公開の写真類を可能な限り掲載し、加えて同資料の評価や特徴等を論考として掲げて、読者の理解を助けるように工夫した。旧制の高等学校が閉校して60年、資料の散逸が心配されるなかで、官立弘前高等学校の学校資料を目録として集めた本書は、教育史、学校史を研究する上で必要不可欠な資料である。また、本年は太宰治生誕100周年でもあり、同資料中に見える太宰治（本名・津島修治）の関係資料は、文学の分野でも必ずや研究を前進させるに違いないと期待している。

弘大ブックレット No.6

まち育てのススメ

北原啓司著



A5判・64頁
定価 525円
(本体500円)

現代社会は、白いキャンパスに様々な夢を描き続けてきた「まちづくり」から、自分たちの資源を十分に活かすために多様な工夫や知恵を集めて何とかしようとする「まち育て」に変わりつつあるということ、著者が見聞きし、また自らが関わった豊富な事例を紹介しながらわかりやすく解説している。「まち育て」の主人公は、まちを「つくる」人ではなく、「たべる」人でなければならない。舌の肥えた生活者の眼差しや想いが活かされていく「まち育て」は、街なかには舞台（ハード）を次々と創りだしていくのではなく、物語（ソフト）を編集して、多様な出来事を誘発していくプロセスであるということ、読者にぜひ気づいてもらいたいという気持ちからまとめた著書である。

一既刊のブックレットシリーズ一

No.5 津軽から発信国際協力キャリアを生きる JICA 編

No.4 いまベトナムは一経済の移行と発展への道のり一

No.3 Dr. 中路の健康医学講座

No.2 青森県のフィールドから一野外動物生態学への招待一

No.1 転換の時代の教師・学生たち一青森師範学校・弘前大学教育学部祝辞・答辞集

ひろだい vol.13 2009年9月発行

弘前大学総務部総務課

表紙：金工作品「幸せのリング」（作者：宮田亮平）

「ひろだい」に関するご意見・ご感想をお聞かせください。

「ひろだい」はWebでもご覧いただけます。下記URLから「大学案内」へお進み下さい。



弘前大学

〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地
Tel.0172-39-3012 Fax.0172-37-6594
E-mail : jm3012@cc.hirosaki-u.ac.jp
http://www.hirosaki-u.ac.jp

